

(様式3)

平成30年度 指定管理業務の評価表

1 施設概要

施設名	重度身体障害者デイサービスセンター	所在地	伊勢市黒瀬町562-3
指定管理者名	社会福祉法人 伊勢市社会福祉協議会	指定期間	平成28年4月1日から令和3年3月31日
設置目的	重度の肢体不自由がある人の日中活動の場や、特別支援学校卒業生の進路として、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、入浴、排せつ及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事、生活に関する相談及び助言その他の必要な日常生活上の支援並びに創作的活動及び生産活動の機会の提供その他の身体機能又は生活能力の向上のために必要な支援を行うため		
業務内容	(伊勢市心身障害児通園施設おおぞら児童園の事業を除く以下の業務) ・利用者数に関する事 ・職員の雇用に関する事 ・伊勢市重度身体障害者デイサービスセンターの事業に関する事(生活介護、日中一時支援事業) ・施設及び設備の維持管理業務に関する事(全館)(施設設備関係、施設清掃業務等) ・その他業務に関する事(危機管理業務、災害発生時における要援護者避難所の開設・運営等)		
施設概要	平成13年3月完成(開館は平成13年4月) 敷地面積1678.93㎡(駐車場含む)、建築面積(延床面積)1195.52㎡ 鉄骨鉄筋コンクリート造2階建て 1階(730.18㎡) 事務室、静養室、デイルーム、和室、食堂、厨房、特殊浴室、脱衣室、トイレ等		
職員体制	【生活介護】 管理者 1名(常勤兼務) サービス管理責任者 1名(常勤専従) 生活支援員 19名(常勤兼務1名、常勤専従13名(うち介護福祉士等5名)、非常勤専従6名(うち介護福祉士等2名)) 医師 1名(非常勤専従) 看護職員 2名(常勤専従1名、非常勤専従1名) 運転手 6名(非常勤専従) 調理員 3名(非常勤専従) 【日中一時支援】 管理者 1名(常勤兼務) 支援員 4名(常勤専従1名、非常勤専従3名)		
施設所管課名	障がい福祉課		

2 収支状況

		(A)	(B)	(C)	(単位:円)	
		平成28年度	平成29年度	平成30年度	比較(C-B)	
事業収支	収入	指定管理料	24,642,000	20,020,000	20,020,000	0
		利用料金	79,153,128	79,328,279	77,222,144	△ 2,106,135
		その他	391,272	329,375	667,403	338,028
		計(a)	104,186,400	99,677,654	97,909,547	△ 1,768,107
	支出	人件費	74,860,396	80,393,231	82,716,922	2,323,691
		管理運営費	17,001,099	15,789,992	16,434,382	644,390
		その他	60,316,051	4,593,502	223,776	△ 4,369,726
		計(b)	152,177,546	100,776,725	99,375,080	△ 1,401,645
収支差引額(a)-(b)		△ 47,991,146	△ 1,099,071	△ 1,465,533	△ 366,462	

最新年度(C)と前年度(B)に収支の増減があったものについて記載	[収入の部の減] ※利用率低下に伴い介護給付費支給額が減額となったことによる、利用料金の減。 [支出の部の増] ※処遇改善手当の支給額増による人件費の増。
----------------------------------	--

3 評価（別表様式4に基づく総合評価）

指定管理者	市
<p>事業計画書に従った管理を行い、ホームページのブログを活用した広報の他、市内の計画相談事業所へ周知を行い利用者の増員を図った。また、本人や家族の希望を計画書に反映し、支援を行った。運営委員会や満足度調査の結果を基に利用者のニーズに沿った事業を実施した。臨時利用希望を柔軟な対応で受け入れることが出来た。また嘱託医による健康相談事業を個別に行い、利用者のサービス向上に努めることが出来た。</p>	<p>施設の設置目的を理解しており、施設の管理について適正に行われていた。利用者数は目標数を少し下回っていたが、臨時利用希望を柔軟な対応で受け入れたこと、利用者・家族のニーズに沿った事業を実施したことは評価できる。 今後も重度の身体障がい者を受け入れる市内唯一の施設として、適切な管理運営を行ってほしい。</p>

(様式4)

指定管理業務の項目別評価表

		施設名		重度身体障害者デイサービスセンター	
評価項目		評価			
		指定管理者		市	
業務運営項目	評価の基準	判定	評価理由	判定	評価理由
施設設置目的の達成	①施設の目的や基本方針の理解	A	施設の目的や基本方針を理解し管理を行った。	A	施設の設置目的や基本方針を理解し、サービスを提供していたと思われる。
	②施設設置目的の達成度	A	緊急時の受入対応など地域住民の方のニーズに応えることが出来た。	A	施設の利用状況、管理状況から施設の設置目的は達成できたと思われる。
	③利用者数	B	利用者目標は1日平均17人であったが、実績は16.2人であり、目標を下回った。	B	目標数を下回る利用者があった。
	④運営状況	A	事業計画書の内容に概ね沿った運営をし、警報など危険時には閉館する判断もしながら供用日数・時間を達成した。	A	事業計画書に計画された運営が行われ、適正な施設運営と思われる。
	⑤職員の配置状況・勤務実績	A	三重県の示す基準、伊勢市の定める配置数に近づけるよう努力した。	A	重度の身体障がい者への支援としての、職員の配置状況・勤務実績は適正であったと思われる。
	⑥意思疎通	A	管理運営業務全般について、市と指定管理者の責任者間で十分な連絡調整がなされていたか。	A	突発的なことに対しても、管理者により適切に連絡・報告がされていた。
	⑦各種管理記録等の整備・保管	A	各種業務計画書、点検記録、整備・修繕・事故・故障等の履歴等の各種管理記録等が整備・保管されていたか。	A	各種の記録については、適正に整備・保管がされており、月報・年報にて報告がされていた。
	⑧地域の振興	B	地域住民との交流及び連携については思うように取り組みを実施することが出来なかったが、ボランティアの受入れを多く行い、利用者と交流する機会を作ることが出来た。	B	地域住民との交流に関する取組みは実施できなかったが、ボランティアを受け入れ、地域福祉に貢献していたと思われる。
	⑨使用許可等	-	貸館等実施していないため、評価なし。		
	⑩利用料金等の徴収状況	A	徴収、減免、還付等は帳簿等が作成され、適正に行なわれていたか。	A	適正に行われていたと思われる。
	⑪個人情報	A	個人情報の取扱いがきちんとなされていたか。	A	個人情報漏洩などの問題も発生しておらず、適切に行われていたと思われる。
	⑫法令遵守	A	関係法令を遵守していたか。	A	障がい者虐待防止法及び障がい者差別解消法など各種法令を遵守した。

(様式4)

指定管理業務の項目別評価表

施設名

重度身体障害者デイサービスセンター

評価項目		評価				
		指定管理者		市		
業務運営項目	評価の基準	判定	評価理由	判定	評価理由	
サービスの質の向上	①施設利用状況及び利用者数増加への取り組み	利用者数の増加や利便性を高めるための具体的な取り組みが行なわれていたか。	A	ブログに活動の様子を掲載する他、臨時利用希望への対応を柔軟に行い利用者数増加に努めた。	A	昨年度よりは利用者数が減少したが、臨時利用希望者への対応が柔軟に行われたと思われる。
	②利用者の平等な利用	個々のサービスについて、対応職員によって格差が生じないよう、施設のサービス水準を確保するための取り組みを行なったか。	A	日々のミーティング及び月例ミーティングを行い職員の質の向上、より良いサービスの提供についての取り組みに努めた。	A	サービス水準については、重度の身体障がい者支援に対する期待される水準であった。
	③適切な情報提供	全ての利用者が情報を得ることができるよう適切な利用情報の提供を行なったか。	A	ホームページのブログ、情報誌の作成などで情報提供を行った。	A	毎月くじらタイムズを発行し、利用者及び家族への情報提供を行っていた。
	④非常時・緊急時の対応	緊急時のマニュアルが整備され、従業員訓練の実施や事故発生時・緊急時の対応は適切か。	A	年間を通して避難訓練を2回実施し、職員及び利用者本人の意識の向上に努めることができた。また、事故発生時においても迅速且つ適切に対応することが出来た。	A	緊急時を想定したマニュアル整備、避難訓練を実施するなど、適切に行われていた。
	⑤苦情解決体制及び対応	利用者からの意見・苦情等を受けて迅速かつ適切に処理できる体制が整っていたか。また、事故、苦情に対する対応は適切であったか。	A	苦情、意見に対して迅速に対応することが出来た。	A	管理者を中心に、利用者からの意見・苦情等を受けて迅速かつ適切に処理できる体制が整っていたと思われる。
	⑥自主事業	利用者ニーズに即した自主事業が行なわれていたか。	A	利用者ニーズに応えるべく臨時利用希望の受入れ、緊急時延長預かりサービスを継続して実施することが出来た。	A	利用者ニーズに即した自主事業が行われていた。
	⑦事業の評価	事業実施後に確認・見直しが行なわれ、次年度へつなげる取り組みがなされていたか。	A	業務報告書を作成、それを元に反省、提案、見直しを行い次年度につなげている。また、今回の評価も利用し伊勢市とも協議を行い、次年度へつなげていく。	A	次年度に向けての見直し等は行っているが、それをどこまで次年度に反映させるかが課題と思われる。
施設・設備等の維持管理	①建物・設備の保守点検	建物・設備・植栽等が適切に管理され、安全性の確保、良好な機能及び美観の保持がされていたか。	A	設備等の安全点検、機能確認を行い毎月の月報に記録をまとめている。また、施設外観においても定期的に巡視し美観の保持に努めた。	A	毎月、安全点検等適切に行い、月報にて報告されていた。
	②備品等の管理	備品の管理・点検・保守は適切に行なわれていたか。	A	備品について丁寧な扱いを心がけ、破損、紛失等がなかった。	A	破損や紛失がなく、適正に管理されていた。
	③修繕業務	点検によって異常が認められた場合は、速やかに修繕・交換・整備・調整等の適切な処置を講じ、その内容を記録されていたか。	A	異常があった場合は、機器にあった対応を行い、記録に残すとともに、月報にて報告を行った。	A	異常時は市へ報告するとともに、早期に業者への対応を依頼するなど適切な対応を行っていた。
	④清掃業務	清掃は適切に行なわれていたか。	A	曜日により業者委託の部分と職員が行う部分を分けて、維持管理できるよう努められた。	A	清掃は適切に行われていた。
	⑤防犯体制	鍵の管理及び防犯に対する対策、対応は適切だったか。	A	鍵は定められた箇所、人物で管理し、退庁時にセキュリティのセットを行い防犯対策を行った。	A	防犯に関する問題はなく、鍵の管理及び防犯に対する対策、対応は適切であった。